> ご注意：地域によっては、このサイトの内容を開く・保存する・転送することに危険が伴う場合があります。当サイトは安全も、常に閲覧できることも保証できません。ご自身でご判断ください。

一人の中国企業家から習近平氏への公開書簡――再任せず、平和的な転換を進めることへの提案

原題：一位中国企业家致习近平先生的公开信：建议不再连任并推动和平转型

中国語原文からの翻訳です。〔　〕内は、中国の事情になじみのない読者のために訳者が補った簡単な背景説明で、原文にはありません。人民元の円換算は 1元＝約24円（2026年11月時点）を目安とした概算です。

出典：2026年11月26日21時16分（日本時間、UTC 12時16分）に、「李老师不是你老师」（@whyyoutouzhele）がXの記事として公開した。薛健氏の依頼による掲載である旨が記されている。https://x.com/whyyoutouzhele/status/2125926580216033348。著者「xue Jian 薛健」（@xueJianXwia）は同日21時51分（日本時間）に「信是我写的。」（この手紙は私が書いた）と確認した。https://x.com/xueJianXwia/status/2125935564176388472。

習近平様

はじめまして。

二つの世代、異なる運命

私は薛健（せつ・けん）と申します。旧暦1989年12月20日、西暦では1990年1月16日に、江蘇省北部の小さな町の、ごく普通の家庭に生まれました。現在は江蘇文峰集団の董事長（会長）を務め、A株〔中国本土の株式市場〕に上場する文峰股份の実質的な支配者（実際控制人）でもあります。

1999年、学校でパソコンの授業が始まり、まもなく町に初めてのネットカフェができました。

その年、私は初めてQQ〔1999年にサービスを始め、のちに中国で最も普及したテンセントのメッセンジャー〕のアカウントを作り、オンラインゲームを覚え、インターネットを通じて全国各地の人たちとチャットをするようになりました。

その年、マカオが中国に返還されました〔ポルトガルの施政下にあったマカオが、1999年12月20日に返還された〕。先生に教わって歌った一節を、今もよく覚えています。「知っていますか、『Macau』は私の本当の名ではないのです。お母さん、私はあまりにも長くあなたのもとを離れていました！」〔「七子之歌・澳門」の一節。詩人・聞一多が1925年に書いた詩に1990年代後半に曲がつけられ、返還の頃に広く歌われた〕

その年、私は9歳でした。

その2年後の2001年、中国はWTOに加盟しました。

1962年、あなたのお父上、習仲勲氏が失脚し〔副総理だった習仲勲は1962年に失脚し、その後十数年にわたり審査・拘束・地方への下放を経験した〕、あなたとご家族はそこから大きな苦難を味わうことになりました。

その年、あなたもまた9歳でした。

1966年、お父上のことが原因で、あなたは学校で批判闘争〔文化大革命（1966～76年）期に、「敵」とされた人を大勢の前でつるし上げた集会〕にかけられました。あなたは当時、なぜこのようなことが起きるのかと先生に尋ねました。

その年、あなたは13歳でした。

2003年、私はネットで1959年から1962年にかけての出来事〔「大躍進」政策（1958～62年）のさなかに起きた大飢饉〕を知りました。当時の私は、中国で数千万人が餓死したなどとは信じられず、「なぜ家で飢え死にするまでじっとしていて、食べ物を探しに出かけなかったのか」とネット上で人と言い争いました。のちに、親族の年長者や、学校の年配の先生から、それが本当のことだったと確かめました。

その年、神舟5号による有人宇宙飛行が成功しました〔中国初の有人宇宙飛行〕。

その年、私もまた13歳でした。

1968年、あなたはお父上のことが原因で、危うく少年犯管教所〔少年院に相当〕に入れられるところでした。

1969年、あなたは「知識青年」として梁家河村に下放されました〔文化大革命期、都市の若者が大量に農村へ送られ労働に従事させられた。梁家河は陝西省の寒村で、習氏は約7年間を窑洞（ヤオトン）で過ごした〕。そのとき、あなたはまだ15歳でした。

同じ年頃の私は、開かれ、寛容で自由な時代に生きていたおかげで、毎晩のように仲間とネットカフェに入り浸ってゲームをし、ネットからより多くの情報を得ていました。

その頃、私はネットで抗日戦争〔日本でいう日中戦争、1937～45年〕のドキュメンタリー『一寸山河一寸血』〔台湾で制作されたドキュメンタリー・シリーズ〕を見て、国軍〔蔣介石率いる国民党政府の軍。のちに内戦で共産党に敗れ台湾へ移った〕が抗日戦争で320万人以上の死傷者を出していたことを知りました。教科書に書かれていた「抵抗しなかった」という話とは違っていたのです。やがて学校をさぼるのが日常になり、遊び盛りだったこともあって中学・高校を何校か転々とし、結局大学には進みませんでした。20歳前後で起業し、家族の支えを受けながら小さな商売から始めて、一歩一歩、今日までやってきました。

2018年、私は中心となって江蘇文峰集団を買収し、集団の董事長に就任しました。

就任した日、社員の一人が私にこう言いました。

「あなたは今、中国民営企業トップ500の中で最年少のトップです。うちの会社は今も400位台に入っています」

私はこう答えました。

「その話は今後、社内でも社外でも二度と口にしないでください。これからも努力を続けて、世界500強（フォーチュン・グローバル500）という夢に向かっていきましょう」

彼が知らなかったのは、その瞬間、私の心には喜びなど少しもなく、むしろ恐怖でいっぱいだったということです。

その年、あなたは憲法を改正し〔国家主席の任期制限（2期10年）を撤廃した2018年の憲法改正〕、同時に国家監察体制の改革を進め、「監察法」が正式に施行されました。

2018年、私の周りの友人たちが、次々と「留置」されるようになりました〔留置：2018年の監察法で設けられた拘束制度。党の規律検査機関と連携して国家の監察委員会が行い、主に公職者が対象だが、贈賄事件などでは民間人にも及び得る。通常の刑事手続きの外で行われ、弁護士との接見はないと広く報じられている。2018年の法律では最長6か月で、2025年6月施行の改正により、一定の重大案件ではより長い期間が認められた〕。彼らは皆、一人きりで部屋に何か月も、ときにはそれ以上閉じ込められ、毎日8時間、腰掛けに座ったまま身動きすることを許されず、協力しなければ家族をどうにかするぞと脅されました。ひと月、ときには何か月も、誰からも一言も話しかけられないこともありました。冤罪や誤判が生まれ始めました。

私は公開されている情報で、あなたが13歳のときに批判闘争にかけられたことを知りました。

あなたが当時どんな恐怖を味わったのか、私には分かりません。けれども2018年の私は、巨大な政治権力の前で、一人の人間の運命がいかにもろいものかを、身にしみて感じました。

ここで、あなたとは異なる時代に育った私自身の歩みをお話ししたのは、こうお伝えしたかったからです。

私たちは異なる時代に育ちました。あなたの後に育ってきたいくつもの世代は、あなたの世代とは違う世界に向き合い、人生に期待するものも違います。

あなたがたの世代がかつて経験したような生き方を私たちに求めることはできませんし、ましてや国全体を1978年以前〔鄧小平が「改革開放」を始め、市場経済へ舵を切った年〕に引き戻すことなどできません。

それは現実的ではなく、不可能なことです。

希望から失望へ

2014年、私は任志強氏と知り合いました〔不動産大手の元経営者。元商業部副部長の子で、歯に衣着せぬ発言から「任大砲」の異名をとった〕。

そのとき、私は彼に尋ねました。

「中国はいつか、本当に法治を行い、私有財産を守り、自由を保障する国になるでしょうか。そうした改革は行われるでしょうか」

彼はこう答えました。

「なる。そうしなければ、この国が長く安定することはないからだ」

その後、私たちは阿拉善SEE生態協会〔中国の企業家たちが内モンゴル・アラシャンの砂漠化対策を機に設立した環境保護団体〕の公益活動に一緒に携わりました。この団体に私を推薦してくれたのは彼で、私たちは長年ともに活動しました。私が国外に出てから、ようやく退会しました。もっとも、あなたの長江10年禁漁という大事業に比べれば、私たちのしてきたことなど取るに足りません。

あるとき、私は彼に尋ねました。

「王岐山氏の反腐敗〔習氏の盟友・王岐山は2012〜17年、党の最高規律機関のトップとして反腐敗運動を指揮した〕は、本当の反腐敗なのですか。それとも政敵の排除なのですか」

彼は言いました。

「もちろん本物の反腐敗だ。人民と国家を救うためだ」

私はさらに尋ねました。

「彼は、いずれ『鳥尽きて弓蔵る』ことになるのを心配していないのでしょうか」〔用が済めば功臣も捨てられる、という故事成語〕

彼は言いました。

「それはない」

その年、王岐山氏はフランス革命についての本を推薦していました〔トクヴィル『旧体制と大革命』とされ、王氏が幹部に読むよう勧めたことで知られる〕。

読み終えた私は、任志強氏に尋ねました。

「この本が言っているのは、権力者は自分から改革などしない、ということではないのですか」

任志強氏は言いました。

「君には分かっていない。改革しなければ、誰にも退路はないんだ」

2018年、私はまた任志強氏と王岐山氏の話をしました。

私は尋ねました。

「王岐山氏は、やはり用済みになれば捨てられるのでしょうか。捕まることになるのでしょうか」

このとき、任志強氏の答えは変わっていました。

彼は言いました。

「いっそ早く病気で死んだほうがいい。そうすれば後で辱めを受けずに済む」

2019年、私はWeChat（微信）で、任志強氏から王岐山氏を批判する文章を受け取りました。

文章の中で彼は激しい言葉を使い、王岐山氏が改革を裏切り、人民を裏切り、歴史を裏切った、中華民族の歴史的罪人だと非難していました。

私は面と向かって尋ねました。

「この文章を王岐山氏に見せたのですか」

彼によれば、2016年に「党のメディアの姓は党」をめぐる発言で処分を受けて以来〔2016年、習近平氏が党のメディアは党に奉仕すべきだと述べたのに対し、任氏が公然と異を唱え、党から処分された〕、王岐山氏は彼と連絡を取らなくなり、会うのも避けるようになったとのことでした。

二人はその後一度も会うことはなく、一切連絡もありませんでした。

ただ、彼は王岐山氏の秘書である黎暁宏氏に連絡し、この文章を渡してほしいと頼んだそうです。黎氏が実際に渡したかどうかは分かりません。

この文章は、当時任志強氏の事件を担当した専従捜査班の手元にありますし、黎氏を通じて事実を確かめることもできます。

2020年、新型コロナの流行が始まりました。

その頃、任志強氏は多くの文章を書き、その中にあなたを批判する一篇がありました。

私もWeChatで受け取りました。

私は彼に尋ねました。

「ほかに誰に送ったのですか」

彼は言いました。

「何人かの友人に送った」

その後、彼は逮捕されました。

私も捕まるのではないかと、一時は思いました。

というのも、同じ文章を受け取ったもう一人、阿拉善SEEの副会長だった董国強氏が、この件で経済犯罪の容疑で逮捕され、のちに懲役10年という重い判決を受けたからです。

任志強氏が懲役18年、息子さんも懲役9年の重い判決を受けたと聞いたとき、私の心は崩れ落ちました。私の知るところでは、専従捜査班は、罪を認めれば息子は釈放すると約束していたそうです。政府は約束を守るべきです。

私は思いました。紅二代〔革命世代の高級幹部の子弟〕でさえ、批判の文章を一篇書いただけで懲役18年の判決を受けた。

それなら、草の根から身を起こし何の後ろ盾もない私たち民営企業家など、何ほどのものでもない、と。

それ以来、私にはビジネスの夢がなくなりました。

この会社もいずれ守り切れないだろう、と思うようになりました。

中国で自分がしてきた努力のすべてに意味がない、とさえ感じました。

2022年の初め、私は上海にいました。

コロナ禍のさなか、私は自宅とオフィスに封鎖され〔2022年春、上海は都市全体がロックダウンされた〕、1か月以上も普通に外出することができませんでした。

毎日、グループチャットでさまざまな知らせを目にしました。病を抱えたバイオリニストが、病院に行けず抗がん剤治療を受けられなくなり、あまりの苦しさにビルから身を投げた。病気になった看護師が、PCR検査の陰性証明がないために自分の勤める病院にすら入れず、命を落とした。子どもを抱いた母親が泣きながら通り沿いの家を一軒一軒訪ね、高熱を出したわが子を救うために風邪薬を分けてほしいと頼んで回っていた──。

その瞬間、1959年から1962年にかけて、なぜあれほど多くの人が家を離れずに餓死していったのかが分かりました。彼らは出ていくことができなかったのです。

上海では普段、毎日数千件の手術が行われ、放射線治療や化学療法、透析など、定期的に欠かせない治療を必要とする患者もいます。上海でのあの半年に何が起き、全国でのあの3年間に何が起きたのか、ご想像いただけるはずです。

子どもの頃、私は彭麗媛女史の「希望の田野で」（在希望的田野上）を聴いて育ちました〔改革開放期の農村を明るく歌った1980年代の歌で、歌手でもある習近平氏夫人の代表曲〕。けれども大人になった私は、あなたの治世のもとで、絶望の荒野を生きることになりました。わずかに残っていた甘い期待も、その頃にすっかり消えてしまいました。

その年、父が末期の胃がんと診断されましたが、どこもかしこも封鎖されていて治療も手術も受けられず、やむなく日本で手術を受け、胃を全摘しました。

4月、私はついに中国を離れる決心をしました。

同じ年、あなたが中央政治局の会議で、資本の規制と民営企業について語ったという話を耳にしました。

友人によれば、あなたは李嘉誠、馬雲（ジャック・マー）、許家印の三人を悪い例として挙げ〔それぞれ香港を代表する財閥創業者、アリババの共同創業者、経営破綻した不動産大手・恒大集団の創業者〕、中国の民営企業家と中国共産党の「初心と使命」〔党の結党の理念を指すスローガン〕との間には根本的な食い違いがある、との考えを示したそうです。

この話を聞いて、私たちは背筋が凍る思いでした。

その瞬間、もう以前のように安心してあの国に戻って暮らすことはできない、とさらに確信しました。

私の身に起きたことと、文峰集団の苦境

2023年、浙江省の企業家、鄭永剛氏〔杉杉集団の創業者〕が日本で亡くなり、東京に弔問の場が設けられました。

私はWeChatのモーメンツ（朋友圏）〔WeChatの友人向けタイムライン機能〕に短い文章を投稿しました。

政府に対し、民営企業家をむやみに逮捕するのはもうやめてほしいと訴えたのです。

私はこう書きました。私たちは、個人の財産がどれだけあるかを、それほど気にしているわけではない。

私たちは国がよくなることを願っているのだ、と。

そして政府に、改革開放という基本国策に立ち返り、さらに政治体制改革を進めるよう呼びかけました。

さもなければ、誰もが最後には底知れぬ深淵に落ちていくことになる、と。

投稿した翌日、会社の人間と地元の役人から電話がかかってきました。

彼らによれば、蔡奇氏と李書磊氏〔蔡奇は党中央政治局常務委員・中央書記処書記、李書磊は党中央政治局委員・中央宣伝部長〕がそれぞれこの件について指示を出し、それが段階的に江蘇省、そして南通市〔文峰集団の本拠地〕まで下りてきたとのことでした。その後、省の党委員会宣伝部の幹部が一団を率いて会社にやって来ました。

会社の人たちは、会社のためにどうか非を認めてほしい、と私に言いました。

そこで私はWeChatで、会社の同僚に向けて謝罪の文章を送りました。

しかしその後、三日目には、私のWeChatのモーメンツとグループチャット機能は、結局利用を停止されました。

その瞬間、私の心は怒りと屈辱でいっぱいになりました。

一人の普通の市民が国の将来への憂いを口にしただけで、なぜこんな目に遭わなければならないのか、私には理解できませんでした。

その後、私は海外で分散型のソーシャル・メッセージング・サービスの開発に投資しました。その一つが「Mosavi」です。

いつの日か、誰も私のモーメンツを勝手に封じたり、私のアカウントを停止したり、普通に意見を述べる権利を奪ったりできなくなることを願っています。そしていつの日か、どの政府も、普通の市民のモーメンツを勝手に封じたり、どんな市民のアカウントも勝手に停止したりできなくなることを願っています。すべての一般市民に、当たり前に意見を述べる権利が認められるべきです。

2024年9月、任志強氏の娘さんから、2か月間お父さんに面会できていないと聞きました。

それまでは毎月普通に面会できていて、私はよく、差し入れる本を選んで彼女に託していました。

彼女の話では、お父さんの前立腺の病気はとても重く、夜中に十数回もトイレに起きなければならず、ぜんそくも患っているとのことでした。

それを聞いて、私は心が落ち着きませんでした。

そこで私はモーメンツに投稿し、関係当局が任志強氏に然るべき医療を受けさせ、病気療養のための仮出所（保外就医）を認めるよう求めました。

そのとき、私はとても激しい言葉を書きました。

もし任志強氏が獄死するようなことがあれば、彼の事件に関わったすべての人の責任を必ず追及する、地の果てまでも追い、血の償いをさせる、と。

私の本来の思いは、彼が治療を受け、家族と再会できるようにしてほしい、ということでした。

その後、娘さんもあなたに宛てた公開書簡を発表しました。

それに続いて、関係当局は私に対する調査を始めました。

2025年に入ると、会社も継続的な調査を受けるようになり、同時に、かつての国内の友人たちが、各地のさまざまな部門から次々と事情聴取（約談）を受けました。

2025年末、1年近く調査が続いた結果、会社の経営陣は不安とおびえの中にありました。

そこで私たちは、会社を外部に売却することにしました。

そのうえ、会社はこの数年もともと経営が苦しく、グループ傘下のホテルなどの大規模な固定資産（重資産）はコロナ以来赤字が続き、売却も困難でした。それでも会社の日々の運営には毎日お金がかかります。私たちは株式を売って資金を作り、銀行借入とその利息、従業員の給与、その他の日常経費に充てるしかありませんでした。

最初に上場会社株式の5%を売却しようとしたときは、買い手と契約を結んでいたにもかかわらず、江蘇証券監督管理局〔中国証券監督管理委員会（証監会）の江蘇省の出先機関〕に阻まれ、断念を余儀なくされました。

当時、グループ傘下の上場会社・文峰股份の時価総額は50億元〔約1,200億円〕でした。同社は上海と江蘇省に90万平方メートル近い商業不動産を保有し、総資産は60億元近く〔約1,400億円〕、純資産は40億元〔約960億円〕、口座の現金は10億元〔約240億円〕あり、有利子負債はわずか数千万元〔数億～20億円程度〕でした。

阻止されたあと、グループは南通市の党委員会と市政府に書面で報告し、会社の資産と負債の状況を説明しました。そして、江蘇証券監督管理局との間を取り持ち、市場原理に基づく株式売却を認めてもらえるよう、地元政府に要望しました。

会社ははっきりとこう申し出ました。売却で得た資金はすべて、証券当局が問題視している事項の解決と、金融機関からの借入の返済に充てる。そうすれば金融機関に損失は出ず、従業員は職を失わず、税収も失われず、会社は支障なく通常どおり経営を続けられる。資金はすべて専用の監督口座に入れてかまわないし、私自身は一銭も受け取らない。市場原理で処理できてグループに資産が残るなら、それも私個人はすべて放棄してよい、と。

同時に私は、江蘇証券監督管理局にも同じ考えを伝えました。

当時、ある買い手が12.5億元〔約300億円〕を出して、グループが持つ上場会社の20%の支配株式を買い取る意向を示していました。

ところが、地元政府に書面を出したあと、南通市党委員会の副秘書長の一人から電話で、「その買い手は歓迎しない」と告げられました。

やむなく会社は、半導体産業の資源を持つ深圳の別の買い手と交渉しました。先方は20%の支配株式に9.5億元〔約230億円〕を提示し、私は今度こそ関係当局が認めてくれるだろうと思っていました。

しかしまさにその過程で、2025年12月から2026年4月にかけて、会社は江蘇証券監督管理局による妨害と処分を受け続けました。

売却を阻む一方で、江蘇証券監督管理局は監査法人を何度も呼び出して圧力をかけ、会社に対して「非標準」の監査意見〔無限定適正意見以外の監査意見〕を出させました。4月末、会社にはST（特別処理）のリスク警告が付けられ〔財務・監査・ガバナンス上の問題がある上場企業に証券取引所が付ける警告表示。上場廃止のおそれを示すのは、より重い「*ST」〕、株価は下がり始めました。

会社はふたたび地元政府に事情を説明しましたが、江蘇証券監督管理局はやはり認めませんでした。

その裏にどのような別の仕組みが働いていたのか、私には分かりません。

要するに、売らせない、ということです。

4月末、買い手は条件を変え、7.5億元〔約180億円〕で株式の15%を買い取り、経営支配権を得たいと求めてきました。私たちは取引契約に署名し、先方は代金の一部を支払い、上海証券取引所でも売却の公告が開示されました。

その当日、江蘇証券監督管理局は上海証券取引所に対し、売却を阻止するよう明確に意見を出し、取引はまたしても中止に追い込まれました。

私はその時点ですでに、地元政府と江蘇証券監督管理局、上海証券取引所に対して、行政手段で会社の売却を禁じれば会社は破綻・倒産に追い込まれる、そうなれば私は習近平に公開書簡を書く、と伝えていました。

その後、会社の株価は下落を続けました。上場会社の時価総額は約50億元から、今日では20億元足らず〔約1,200億円から約480億円未満へ〕にまで落ち込みました。関係する金融機関は訴訟を起こし始めました。

会社は7月から、さらに正式な立件調査の手続きに入りました。今日に至るまで会社は調査中のままで、株式の売却も制限されています。

総資産100億元〔約2,400億円〕、1万人近い雇用を抱える企業を、なぜこのような行政手段で一歩一歩、破綻と破産清算へと追い込むのか、私には理解できません。そもそも株式売却で得る資金は、国有金融機関からの借入の返済に充てるためのものでした。このままでは、会社は破産清算と司法競売の手続きに入ら

ざるを得ません。そうなれば価格は非常に低くなり、数億元しか残らないかもしれません。もとの市場取引の価格に比べて、8億〜10億元〔約190億〜240億円〕ほど安く売られることになるかもしれません。

こうしたやり方で、結局得をするのは誰でしょうか。

損害を受けるのは、国有金融機関です。

影響を受けるのは、従業員の雇用であり、地方の税収です。最終的には、誰かが裁判所の競売を通じて安値で会社を手に入れるかもしれません。しかしそれは私の手からお金を奪うだけでなく、銀行から、国庫からお金を奪うことでもあります。

このような処理の仕方は間違っており、不適切だと私は考えます。

たとえ関係当局が私個人を処分する必要があるとしても、会社全体や、普通の従業員を傷つけるべきではありません。彼らに罪はありません。私が海外で何を言い、何をしてきたのか、彼らはまったく知りませんし、私個人の言動を左右することもできません。しかも私は、すでに5年近く海外で暮らしています。

関係当局あるいは地元政府に対し、文峰集団の件を法に基づいて適切に処理するよう求めていただきたいのです。もしこの件をお取り上げくださるのであれば、処理に当たったどの役人も責めないでいただきたいとお願いします。私はただ、会社のことが適切に処理されれば、それでよいのです。

私は普通の家庭に生まれ、改革開放の時代に育ちました。

普通の人々に運命を変える機会を与えてくれたあの時代に、私はずっと感謝の念を抱いています。国内の資産がすべてゼロになることは受け入れられます。それでお互いに貸し借りなしです。しかし、関係当局が行政手段で企業を破綻に追い込み、債務超過にさせ、他の人々まで巻き添えにすることは受け入れられません。

任志強氏に、しかるべき治療を

あらためて、任志強氏の保外就医をお認めくださるようお願いします。

最近、任志強氏の娘さんから、お父さんはこのところ、ときには電話で話すことさえつらそうだと聞きました。体調はとても不安定で、良くなったり悪くなったりしているそうです。

習近平様、あなたにも娘さんがいらっしゃいます。

どうか、立場を置き換えて考えてみてください。

任志強氏は文章を一篇書き、あなたを少しばかり批判しました。

そのために彼が払った代償は、すでに十分に大きなものです。

第三者として、あなたを批判したその文章を私は何度か読み返しましたが、特別なことは何も見当たらず、翌日にはもう内容さえ思い出せませんでした。

あらためてお願いします。彼に保外就医の機会を与え、治療を受けさせ、家族と再会させてあげてください。

もしそれがかなうなら、私たちはそのご厚意を忘れず、いつか機会があれば必ずお返しします。

中国経済が直面しているリスク

続いて、いまの中国経済の状況についてお話ししたいと思います。

まず対外面です。2024年以降、米国は中国製品に対する関税を何度も調整してきました。

一方で、エネルギー、半導体、原材料、農産物など、欠かせない輸入品にはますます多くのドルが必要になっています。かつて中国は、イランやベネズエラなどとの貿易で、人民元建てでエネルギーを輸入することができました。

いまは輸出と輸入の両方に圧力がかかっています。

もちろん、公式の輸出統計は非常に好調です。しかし私の知る限り、その数字は実態と合っていません。中央銀行に、いま使える外貨が前年同期より増えたのか減ったのかを尋ねてみれば、すぐに分かるはずです。

今年に入ってから、中国の石油製品価格は何度も引き上げられ、ガソリン・軽油価格の累計上昇率は20%を超えました。

最近では、各地で軽油の供給がひっ迫するという危険な状況も起きています。

ロイター通信は今年何度も、山東省の地方製油所〔独立系の民営製油所。「ティーポット」と呼ばれる〕の平均稼働率が50%にとどまり、原油の供給が深刻に不足していると報じています。

しかし国際市場では、原油の供給は安定しています。問題はどこにあるのでしょうか。

業界関係者によれば、中国では今後1年以内に、きわめて深刻なエネルギー供給問題が起きるおそれがあるとのことです。

次に国内です。全国の不動産価格はピーク時から約50%下落し、総価値は200兆元前後〔約4,800兆円〕も目減りしました。

それが金融システム全体にどんな結果をもたらすかは、想像に難くありません。

続いて雇用と社会保障です。

公式に発表された就業者数は、2025年で7.25億人です。

今年の第1四半期に公式に開示された「柔軟就業」〔ギグワークや非正規・臨時の仕事など〕の人口は、すでに3.2億人に達しています。いまの経済情勢からすれば、実際にはすでに4億人を超えているかもしれません。

その多くは、失業者や半失業者と本質的に変わりません。公式に発表される都市調査失業率を見るだけでは、中国の雇用の実態はまったく分かりません。

格隆匯〔中国の金融情報プラットフォーム〕のデータによれば、今後十数年間、平均して1日に約6.3万人が退職します。その一方で、いまは毎日大勢の人が社会保険料の納付をやめています。年金を受け取る人はどんどん増え、保険料を払い続ける人はどんどん減っているのです。

今年に入ってから、ネット上の断片的な情報によれば、東北地方や、さらには山東省でも、年金が期日どおりに支給されない事態が起きています。

最近、人的資源・社会保障部門は、柔軟就業者からの社会保険料の徴収を強化し始めました。過去の保険料を遡って徴収する地域さえ出てきています。しかし巨大な社会保険資金の不足に比べれば、焼け石に水にすぎません。

さらに深刻なのは、家計債務の問題も悪化し続けていることです。

ブルームバーグは、今年初めの時点で個人ローンの債務不履行に関わる人が1.2億人を超えたと報じましたが、金融業界の友人によれば、実際にはそれをはるかに上回るとのことです。

次に地方財政です。

中央財政も、全国31の省級行政区の地方財政も、すべて赤字です。地方のさまざまな隠れ債務まで含めれば、実態は公表された決算よりはるかに深刻です。

かつて財政力が比較的豊かだった江蘇・浙江・上海でさえ、一部で財政がひっ迫し、一部の区や県では公務員の給与支払いが難しくなる事態も起きています。江蘇省北部の一部の県は、南部に比べて経済力が弱く、従来の資金調達ルートでは足りず、12〜15%という高金利で民間から資金を集めて公務員の給与を賄っているほどです。ある一つの県だけで、こうした高金利の資金集めが数百億元〔数千億〜2兆円規模〕にのぼります。それでも全国から見れば、江蘇省はいちばん恵まれた地域なのです。

全国各地の病院や学校、一部の末端の公的機関では、給与の未払いが広がっています。中国の地方財政はすでにきわめて深刻な苦境に陥っており、状況はなお悪化を続けています。

財政、投資、消費、不動産、雇用、金融、工業生産のいずれにも、程度の差こそあれ深刻な問題があります。

私は、輸出統計の実態についても疑問を抱いています。

中国経済は、複数の臓器不全が重なり合うような局面に直面しています。

企業家の友人や経済学者と内々に話をすると、皆、中国経済がシステミックな危機の臨界点に近づいており、今後1年ほどのうちに一気に折れるように崩壊するのではないかと、ますます心配するようになっています。

もちろん、それが具体的にいつ、どのような形で起きるのかは、神のみぞ知ることです。

民営経済と実体経済が縮小を続け、市場の担い手が減り続ければ、システム全体はますます維持が難しくなります。あらためてお願いします。各級政府に、民営企業家の留置や逮捕をやめさせてください。民営企業は、雇用と社会の安定を支える重しであり、社会の平和的な転換を進める健全な力でもあります。

また、地方政府は地方国有企業や「城投」〔地方政府融資平台（LGFV）。地方政府が帳簿外で資金を借り入れるために設立した会社〕を通じて銀行システムから絶えず資金を調達し、何とか回しています。そうなれば、リスクは最終的に金融機関を押しつぶすことになります。そして銀行システムの背後には、無数の一般の人々の預金と、国全体の信用があるのです。

珠海華発や深圳万科〔いずれも広東省の大手不動産グループで、地方政府系の株主を持つ〕のような地方国有企業は、全国にまだたくさんあります。本当に深刻な債務不履行が起きれば、表面上は広東省だけの問題に見えるでしょう。

しかし、中央政府は放っておけるでしょうか。

もし全国各地で危機が噴き出す時が来れば、中央政府は傍観していられないばかりか、そのときになって手を打とうとしても、もう手遅れです。

もちろん、私の見識は浅いものです。

経済、財政、金融を本当に理解している人を何人か集めて、真剣に会議を開いてみてはいかがでしょうか。

ただし、財政部、金融監督当局、関係機関に対して、各地の本当の財政状況、財政の穴、地方国有企業の負債状況、隠れ債務、金融機関の本当の不良債権、そして中央銀行が実際に使える外貨の状況を、すべて取りまとめるよう求めなければなりません。

そして彼らに、本当のデータに基づいて、このまま推移すれば経済システム全体がいつ深刻なシステミック・リスクに直面するのかを判断させてください。

もし彼らの結論が、あなたがいま耳にしている内容と異なり、さらには私の懸念に近いものであったなら、次の提案を真剣にご検討いただきたいと願っています。

平和的な転換についての提案

あなたが主導し、中央委員会〔中国共産党中央委員会。党大会の閉会中の党の最高機関〕の授権のもとで「国家緊急事態委員会」を設立し、平和的な転換を進めることを提案します。

まず、国の本当の財政帳簿、地方債務、国有企業の負債、金融機関のリスク、そして国がいま直面している経済的な圧力を、できる限りすべて社会に公開してください。

国民に、私たちの国が本当はどんな状態にあるのかを知らせるのです。

そのうえで、この委員会が明確な期限内に新しい憲法の制定を進め、政治を人民の手に返すのです。

この委員会には1〜2年の移行期間を設けることができます。移行期間中、あなたには党と国家の主要な指導職を退いていただき、党と政府の権力を国家緊急事態委員会に移譲していただく必要があります。これはあなたへの侮辱や挑戦のつもりで申し上げるのではありません。平和的な転換の誠意を、社会のあらゆる人々に心から信じてもらうためです。

ただし、あなたご自身の安全を考慮し、移行期間中は引き続き中央軍事委員会主席〔中国の軍を統帥する機関のトップ〕を務めることができるものとし、その任期は国家緊急事態委員会と同じとします。新憲法が施行された日から、軍も同時に新憲法の枠組みのもとでの運用に移されます。

そうすれば、あなたも安心できるはずです。

新しい憲法は、私有財産を真に保障し、法治を確立し、市民の自由を保障し、結党の禁止を解き、国家権力を人民の手に返すものでなければなりません。

新憲法は、全国民による公開の議論と十分な協議にゆだねられるべきです。

同時に、新憲法には特別な保障条項を設けます。

あなたと、あなたが率いる中央委員会が、自ら進んで政治を人民に返し、自ら権力を新しい立憲体制に移譲して、国の平和的な転換を実現させたことにかんがみ、あなたとご家族、そして中央委員会のメンバーに対して、明確な安全の保障を与えるのです。

特別恩赦の条項によって、過去の在任中に起きたことについては、法的責任を問わないものとすることができます。

もちろん、恩赦の具体的な範囲や手続き、そして他の被害者の正当な権利や司法の公正とどう両立させるかについては、社会のさまざまな立場からさらに議論を重ね、合法的な手続きを経て決める必要があります。

同時に、新しい憲法と移行措置の中で、現在700万人を超える公務員の正当な雇用の権利も保障しなければなりません。政治体制が変わったからといって、普通の公務員が突然仕事と生活の糧を失うようなことがあってはなりません。

もちろん、この間に起きた冤罪や誤判、そしてそれをつくり出すことに関わった人々については、法に基づいて調査し、処理すべきです。

しかし、あらゆる調査と責任追及は、法治の軌道の上で行われなければなりません。

仮に、国家緊急事態委員会を7人で構成するとしましょう。

そのうち4人は、あなたが信頼する人を指名します。

たとえば蔡奇氏、王小洪氏、李強氏、彭麗媛女史〔それぞれ党中央政治局常務委員、公安相、首相（国務院総理）、習近平氏夫人〕などです。

残る3人は、民間社会が推挙します。

たとえば任志強氏、黎智英（ジミー・ライ）氏〔香港の民主派紙「蘋果日報（アップル・デイリー）」の創業者で、現在収監中〕、あるいは故・劉暁波氏〔2010年ノーベル平和賞受賞者。2017年に拘束下で死去〕の夫人、劉霞女史など、社会的影響力のある人たちです。

もちろん、これは私が思いつくままに挙げた例にすぎず、ご本人たちが参加を望んでいるという意味ではありません。

具体的に誰で構成すべきかは、あなたが十分にお考えになればよいことです。

私がこの提案をするのは、過去に起きたことがすべて正しかったと考えているからではありません。

この国ができる限り小さな代償で、制度の平和的な転換を実現できるよう願っているからです。

誰もが平和な未来を思い描けるようにするためです。

新しい憲法と特別保障条項について幅広い合意を形づくるために、社会のさまざまな人々に共同で署名してもらい、この平和的な移行の枠組みを支持し保障することを公に表明してもらうこともできます。

そこには、国内外の企業家、知識人、その他の各界の人々が含まれます。

さらに、海外にいる香港の同胞、89年世代の学生たち〔1989年の天安門民主化運動の世代〕、法輪功の人々〔1999年から中国で禁止されている気功系の精神運動の学習者〕など、異なる政治的見解を持つすべてのグループが含まれます。新憲法と特別条項を認めるのであれば、彼らを歓迎すべきです。

彼らを故郷に迎え入れ、その志を存分に生かし、心に描く理想の国を築いてもらうのです。そうして一人ひとりの中国人が、自分なりのやり方で、自分の「中国の夢」を追い求められるようにするのです。

広大な中国には、彼らを自由に羽ばたかせるだけの度量と懐の深さがあるはずです。

さらには、中国の主権と、国の将来を中国人民自身が決めることを尊重するという前提のもとで、国際連合や関係国を招き、平和的な移行に対して適切な国際的支援と立ち会いを求めることもできるでしょう。

これらはすべて、私個人の初歩的な考えにすぎません。

まだまだ未熟で、議論し改善すべき点が多いことも分かっています。

私は、自分が見てきたこと、案じていること、そして国が最小の代償で平和的な転換を実現できると考える構想と提案を、口に出してお伝えしているのです。たとえあなたがいますぐその気になったとしても、この案が成功する確率はどんどん小さくなっており、いまではもう30%しかなく、残された時間もきわめて限られていると私は考えています。

それでも、真剣に考えていただきたいのです。

いつの日か、あなたがご家族とヨーロッパにワールドカップを見に行き、世界各地を旅する姿を見られることを願っています。

いつの日か、あなたの娘さんが、あなたと、娘さんのお子さん（お孫さん）との幸せなひとときをSNSで紹介できるようになることを願っています。

いつの日か、奥様の彭麗媛女史がコンサートを開けるようになることを願っています。

私たちもチケットを買って、彼女の歌を聴きに行くことができます。

そしてあなたは古い友人たちを連れて、奥様の応援に駆けつけることができるのです。

私たちは同じ劇場に座っています。

互いの心に恐れはありません。

さらに言えば、いつの日か、どこかの街角のレストランや公園で、偶然あなたにお会いできたらと願っています。

一緒に腰を下ろして、お酒を一杯酌み交わせたらと思います。

ある世代と別の世代の違いについて語り合い、あなたがお好きな『ゴッドファーザー』の一代目と二代目の違いについても語り合えたらと思います。

そのときお会いするあなたが、優しく穏やかなおじいさんであってほしいと願っています。今日のように、誰もがその名を口にするだけで恐れを感じる習近平であってほしくはないのです。

いつの日か、私たち全員が、もう恐れの中で暮らさずに済むようになることを願っています。

習近平様、もし不安や焦りを感じておられるなら、心の中で神と語り合ってみることをお勧めします。

特別な形式も、儀式もいりません。

心の中で思っていること、心配していること、願っていることを、何でも神に打ち明けてみてください。

あなたの思いと願いが善いものであれば、神はきっとあなたの祈りを聞いてくださると私は信じています。

この数年、私は怒り、苦しみもしました。

自分や友人、そして会社が受けた仕打ちのために、私を傷つけた人たちに復讐しようと考えたこともありました。

けれども今日、あなたにお伝えしたいのです。

私は、私を傷つけた人たちを赦し、許すことを選びます。

憎しみがこの先も続くことを、私は望みません。

私たちの次の世代が、私たちの世代が経験したような恐れを、ふたたび味わうことを望みません。

私は神に祈ります。任志強氏のお体をお守りください、彼を憐れみ、しかるべき治療を受けて一日も早く家族と再会できるようにしてください、と。

習近平様、私はあなたのためにも祈ります。

神があなたに愛と憐れみを、そして霊的な知恵をお与えくださいますように。

あなたがこの国の本当の姿を見、普通の人々の苦しみを見、平和と正義への道を見ることができますように。そして、歴史の前で正しい選択ができるよう、神があなたを助けてくださいますように。

薛健

2026年11月21日未明、東京にて

訳注（訳者による補足の一覧）

本文中の〔　〕はすべて訳者が補ったもので、中立的な背景説明にとどめています。削除しても書簡の内容には影響しません。

1. QQ（1999年開始、のちに中国で最も普及したテンセントのメッセンジャー）；A株（中国本土の株式市場）

2. マカオ返還（ポルトガル施政下から、1999年12月20日）

3. 「七子之歌・澳門」（聞一多の1925年の詩に1990年代後半に曲がつけられ、返還の頃に広く歌われた）

4. 習仲勲の1962年の失脚とその後の境遇

5. 批判闘争と文化大革命（1966〜76年）

6. 大飢饉（1959〜62年）と「大躍進」政策（1958〜62年）

7. 神舟5号＝中国初の有人宇宙飛行

8. 知識青年の下放と梁家河村（陝西省）

9. 抗日戦争＝日本でいう日中戦争（1937〜45年）

10. 『一寸山河一寸血』＝台湾制作のドキュメンタリー

11. 国軍＝蔣介石の国民党政府軍

12. 2018年憲法改正（国家主席の任期制限撤廃）

13. 留置（2018年監察法による拘束制度。2018年法は最長6か月、2025年6月施行の改正で一定の重大案件はより長期。弁護士接見はないと広く報じられている）

14. 1978年＝改革開放の開始

15. 任志強（国有の華遠集団の元董事長で2014年退職、元商業部副部長の子、「任大砲」）

16. 阿拉善SEE生態協会（企業家による環境保護団体）

17. 王岐山（2012〜17年に党規律機関トップとして反腐敗運動を指揮）

18. 「鳥尽きて弓蔵る」の意味

19. フランス革命の本＝トクヴィル『旧体制と大革命』とされる

20. 「党のメディアの姓は党」（2016年）と任氏の処分

21. 紅二代

22. 2022年春の上海ロックダウン

23. 彭麗媛「希望の田野で」

24. 李嘉誠・馬雲（アリババ共同創業者）・許家印の人物説明

25. 「初心と使命」（党のスローガン）

26. 鄭永剛（杉杉集団創業者）

27. WeChatのモーメンツ（朋友圏）

28. 蔡奇（政治局常務委員）・李書磊（政治局委員、中央宣伝部長）の役職

29. 南通市（文峰集団の本拠地）

30. 江蘇証券監督管理局（証監会の江蘇省出先機関）

31. STのリスク警告（上場廃止リスクは「*ST」）、「非標準」監査意見の説明

32. 山東省の地方製油所（「ティーポット」）

33. 柔軟就業

34. 格隆匯（金融情報プラットフォーム）

35. 城投（地方政府融資平台、LGFV）

36. 珠海華発・深圳万科（広東省の不動産グループ）

37. 中央委員会、中央軍事委員会

38. 蔡奇・王小洪・李強・彭麗媛の役職

39. 黎智英（ジミー・ライ）、劉暁波、劉霞

40. 89年世代（天安門民主化運動）、法輪功

41. 人民元金額の円換算（1元＝約24円の概算）

訳語についての判断：

・「一代教父和二代教父」は「『ゴッドファーザー』の一代目と二代目」と訳し、映画の1作目・2作目、またはコルレオーネ家のヴィトーとマイケルの二世代、どちらの読みも残しました（世代という書簡のテーマとも響き合います）。原文は「您喜欢的（あなたがお好きな）」と言い切っています。習近平氏がこの作品を好むという話は広く伝えられていますが二次情報で、一次資料では確認できていません。

・マカオの歌は、1999年に歌われた「七子之歌・澳門」の一節「你可知 'Macau' 不是我真姓」を訳しました。

・「その年、王岐山氏はフランス革命についての本を推薦していました」は原文の「那一年」に従っています。原文はどの年かを明示していません。

・「保外就医」は「病気療養のための仮出所（保外就医）」と訳し、以後は「保外就医」としました。

・「約談」は「事情聴取（約談）」としました。

・「转型」は「転換」、「过渡」は「移行」で統一しました（見出しと「平和的な転換」は转型、暫定期間の取り決めは过渡）。

・「实际控制人」は「実質的な支配者（実際控制人）」とし、「支配株主」とはしていません。

・彭麗媛氏・劉霞氏は原文の「女士」に合わせて「女史」としました。

このコピーについて

公式サイト: https://tokyoloveletter.org/ja/ (mirrors: https://tokyoloveletter.org/mirrors.txt)

minisign 公開鍵: RWRb/9TOMzi881t4y2twkU/rZOffWtkNNFlLybNBw8/5GGvIqeMwe7qO

当サイトが本物かを確認する: https://tokyoloveletter.org/ja/verify/

ご注意：地域によっては、このサイトの内容を開く・保存する・転送することに危険が伴う場合があります。当サイトは安全も、常に閲覧できることも保証できません。ご自身でご判断ください。

当サイトは寄付を受け付けていません。当サイトの名をかたる募金はすべて偽物です。

Tokyo Love Letter・tokyoloveletter.org